

令和 7 年度 第 1 回
兵庫県域の大阪湾ベイエリア活性化推進協議会
企画委員会

令和 7 年 12 月 25 日（木） 15：00～17：00
ラッセホール 5 階 サンフラワー

次第

【報告事項】 ウェルネスツーリズムの取組

- 1. 令和7年度の取組 04
- 2. 成果と今後の展開 06

【報告事項】 大阪・関西万博までのプロジェクト

- 1. ひょうご楽市楽座の結果 08
- 2. 空飛ぶクルマデモフライトの結果 09
- 3. 海上交通（万博航路）の結果 10
- 4. 基本方針に基づくプロジェクト 11
- 5. 基本方針に記載のないプロジェクト 14

【協議事項】 今後のプロジェクトの方向性

- 1. 中長期的なプロジェクトの検討 17
- 2. 第2回企画委員会の協議事項 18



基本方針での位置づけ

兵庫県域の大阪湾バイエリア活性化基本方針P.10

9 基本方針の実現に向けて

プロジェクトの検討

産学公民による連携

産学公民のそれぞれがバイエリア活性化という1つの目標を共有し、多様な主体と時間的、場所的、組織的制約を超え、協働してプロジェクトを検討し、新たなイノベーションを生み出す。

プロジェクトの実施

行政による環境整備

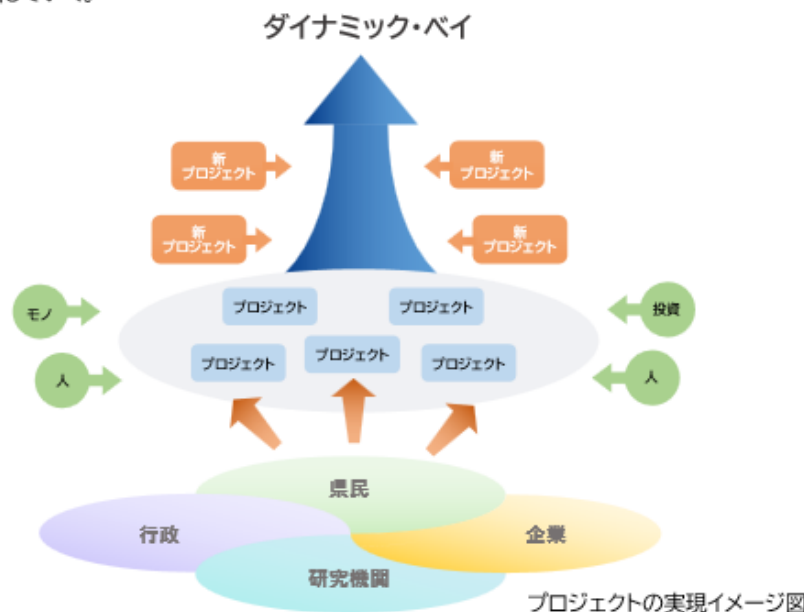
課題解決に向けたプロジェクトを民間が実施するにあたり、土地利用計画や規制の見直しが必要になる場合は、関係行政機関が規制緩和などにより実施を後押しする。

また、行政の施設整備や行政用地の活用促進により、民間が参入しやすい環境を整備する。

プロジェクトの実施による人・モノ・投資の呼び込み

各プロジェクトの実施により相乗効果を生み出し、バイエリアの魅力が高まって、人・モノ・投資を呼び込む。

新たな人・モノ・投資が集まることで、新たなプロジェクトが検討・実施され、さらなる効果を生み出していく。



時間軸を意識

- 万博開催(令和7(2025)年)までは、即効性がある人を呼び込むプロジェクトを先行して実施する。
- 並行して、万博以降を見据えて実施までに協議調整など、期間を要するモノと投資を呼び込むプロジェクトを検討する。

令和5(2023)年

【2023年～2025年 大阪・関西万博開催まで】
万博を好機にバイエリアの魅力を世界にアピール

兵庫県域の大阪湾バイエリア活性化基本方針策定

- 短期的には、誘客・交流の活性化を軸に、万博会場と県内各地を結ぶ海上交通の充実や、地域間を同遊する観光コンテンツの造成、運河や臨海部を活用したイベントコンテンツの展開等のプロジェクトを展開します。
- 並行して、中長期的に実施する、モノや投資を呼び込むプロジェクトに着手します。

令和7(2025)年

大阪・関西万博開催

- 「People's Living Lab 未来の実験場」をコンセプトとした博覧会
- 国内外から2,820万人もの来場者が見込まれ、世界がこのバイエリアに注目

令和8(2026)年

【2026年以降～ 大阪・関西万博以降】
東西日本を結ぶ大交流圏の中心結節点としてグローバルに躍動

- 中長期的なプロジェクトを実施し、エリア全体の訴求力を高め、人・モノ・投資を持続的に呼び込みます。
- そのために、神戸空港の国際化、道路や港湾インフラの整備など、社会情勢に応じた土地利用計画や規制の見直しを実施し、民間のチャレンジ意欲を引き出します。
- 大阪湾のみならず、瀬戸内からも人・モノ・投資を呼び込みます。
- 将来的には、瀬戸内の東の玄関口として、リニア開通で形成されるスーパーメガリージョンの西の玄関口として、そして日本の東西を結ぶ結節点として、国内の求心性はもとより、グローバルに躍動します。

【目標年次：2040年頃】

阪神・淡路バイエリアの持続的な賑わい、活性化を実現

企画委員会におけるプロジェクトの方向性

令和6年度第2回（R7.3.12）企画委員会資料

万博までのプロジェクト実施 <～2025年>
(基本方針に基づくプロジェクト)

中長期的なプロジェクト検討 <～2030年>
(2024年度に企画委員会で検討したプロジェクト)

神戸

- ・ ジーライオンアリーナ開業（2025年4月）
- ・ 神戸須磨シーワールド（水族館・ホテル）の開業（2024年6月）

施設整備完了見込。
周辺活性化に向けて
事業者と継続協議。

阪神

- ・ 新西宮YHへのスーパーヨット誘致PR動画（R5制作）を活用した海外向け情報発信
- ・ 万博に向けたひょうご楽市・楽座開催調整（イベント企画、インフラ整備）

・ 瀬戸内連携の強化（海外PRや勉強会）
・ 万博を契機とした交流人口の拡大（県内各地プレイヤーの参画）

淡路

- ・ 地域デザイン専門職大学院等食と観光の専門人材育成施設の整備
- ・ 船舶の受入環境向上に向けた淡路交流の翼港の浮棧橋改良工事

万博効果を見据えた
施策実施、施設整備
(島博、花みどりフェア、
AWAJI EARTH MUSEUM等)

その他
(全域
テーマ)

- ・ 万博、瀬戸芸を見据えた航路就航支援（旅行商品造成・実証/補助事業）
- ・ 空飛ぶクルマ万博期間中のデモフライト実施に向けた調整

・ 旅行会社と船会社のマッチングや補助事業により航路実現
・ 機運醸成イベント企画、デモフライトも考慮した補助体制整備

マリンビレッジ(阪神-神戸)

阪神間ブランドを生かした
マリンレジャーを核とする上質な親水空間の形成
(海遊/回遊エリア)

- ・ マリンスポーツ関連イベント、活動拠点のPRを通じた認知向上
- ・ 海洋体育館、新西宮YH等既存施設を活用した賑わい創出
- ・ 次世代産業立地など港湾周辺の活性化
- ・ 環境の保護、活用(ブルーカーボン等)

ウェルネスツーリズム

国生み神話、御食国等ルーツオブジャパンの自然・食を軸とした世界へと躍進する
ウェルビーイングなエリアの形成

- ・ 有馬温泉・六甲山との連携による相互誘客(山のリトリート)
- ・ 淡路島へのアクセス性強化と首都圏、海外からの認知向上(海のリトリート)
- ・ ラグジュアリーホテル誘致
- ・ 富裕層インバウンド受入に向けた魅力向上、ガイドライン整備

・ プロジェクトへの参画を促すPRプラットフォーム立上げによる認知向上の基盤整備

・ 地域住民や関係者を巻き込み、賑わいづくりの検討加速

・ 港湾周辺の活性化に向けた市との連携強化

【報告事項】ウェルネスツーリズムの取組

令和6年度第2回（R7.3.12）企画委員会資料

万博までのプロジェクト実施 <～2025年>
(基本方針に基づくプロジェクト)

中長期的なプロジェクト検討 <～2030年>
(2024年度に企画委員会で検討したプロジェクト)

神戸

- ・ ジーライオンアリーナ開業（2025年4月）
- ・ 神戸須磨シーワールド（水族館・ホテル）の開業（2024年6月）

施設整備完了見込。
周辺活性化に向けて
事業者と継続協議。

阪神

- ・ 新西宮YHへのスーパーヨット誘致PR動画（R5制作）を活用した海外向け情報発信
- ・ 万博に向けたひょうご楽市・楽座開催調整（イベント企画、インフラ整備）

・ 瀬戸内連携の強化（海外PRや勉強会）
・ 万博を契機とした交流人口の拡大（県内各地プレイヤーの参画）

淡路

- ・ 地域デザイン専門職大学院等食と観光の専門人材育成施設の整備
- ・ 船舶の受入環境向上に向けた淡路交流の翼港の浮桟橋改良工事

万博効果を見据えた
施策実施、施設整備
(島博、花みどりフェア、
AWAJI EARTH MUSEUM等)

その他
(全域
テーマ)

- ・ 万博、瀬戸芸を見据えた航路就航支援（旅行商品造成・実証/補助事業）
- ・ 空飛ぶクルマ万博期間中のデモフライト実施に向けた調整

・ 旅行会社と船会社のマッチングや補助事業により航路実現
・ 機運醸成イベント企画、デモフライトも考慮した補助体制整備

マリンビレッジ(阪神-神戸)

阪神間ブランドを生かした
マリンレジャーを核とする上質な親水空間の形成
(海遊/回遊エリア)

- ・ マリンスポーツ関連イベント、活動拠点のPRを通じた認知向上
- ・ 海洋体育館、新西宮YH等既存施設を活用した賑わい創出
- ・ 次世代産業立地など港湾周辺の活性化
- ・ 環境の保護、活用(ブルーカーボン等)

ウェルネスツーリズム

国生み神話、御食国等ルーツオブジャパンの自然・食を軸とした世界へと躍進する
ウェルビーイングなエリアの形成

- ・ 有馬温泉・六甲山との連携による相互誘客(山のリトリート)
- ・ 淡路島へのアクセス性強化と首都圏、海外からの認知向上(海のリトリート)
- ・ ラグジュアリーホテル誘致
- ・ 富裕層インバウンド受入に向けた魅力向上、ガイドライン整備

・ プロジェクトへの参画を促すPRプラットフォーム立上げによる認知向上の基盤整備

・ 地域住民や関係者を巻き込み、賑わいづくりの検討加速

・ 港湾周辺の活性化に向けた市との連携強化

令和7年度の取組・重点課題

- (1) ラキャルプフェス2025（R7.5.23～25）への参加
- (2) インフルエンサー・記者を対象としたファムトリップの実施

1. 令和7年度の取組

(1) 「ラキラルプフェス2025」(R7.5.23~25開催)への参加

- 「六甲有馬・淡路島WellnessDestination」のイメージ確立やプロモーションの一環として、首都圏イベントでのブース出展・セミナー登壇を実施
- フェス来場者(30~50代キャリア女性)を対象とした観光ニーズに関するマーケティング調査、観光・美容・健康分野のインフルエンサーとの接点創出を実施



ウェルネスツーリズムブース(右側: 海のリトリート、左側: 山のリトリート)



来場者を対象としたセミナーへの登壇

当日の様子(3日間で約2,500名来場)

1. 令和7年度の取組

(2) インフルエンサー・記者を対象とした取材（ファムトリップ）の実施

- ・ ランカールプフェスで接点を持ったメディアインフルエンサー関係者による取材を随時受入
- ・ 日経MJでの連載記事の掲載、インフルエンサーによるSNSでの発信が実現
（取材先：御所別荘、禅坊靖寧、Awaji Nature Lab&Resort、西山酒造場 等）



9/24付け日経MJ（全3回連載予定）



禅坊靖寧のファムトリップ、Instagram発信（インフルエンサー・D氏）

2. 成果と今後の展開

(1) 「ひょうご新観光戦略」の中間見直し

- 「六甲有馬・淡路島WellnessDestination」検討ワーキングの議論を踏まえた取組により、マーケティング調査やファムトリップが実現、兵庫県版ウェルネスツーリズムの認知度が向上
- 「ひょうご新観光戦略」（2023-2027）の中間見直しにて「ウェルネスツーリズム」を新規追加し、今後の全県方針に位置付け

「3(3)②兵庫を拠点としたツーリズムの推進」 P86

(イ) 多自然地域と都市部が近接する本県の立地や、兵庫ならではの体験を求めるモダンラグジュアリー層が好む上質なコンテンツを活かしたウェルネスツーリズムを推進する

- ① 食や酒など地域に根付くルーツやストーリーを大切にした“兵庫リトル旅”
- ② 温泉や自然・文化体験など心身のリトリートツーリズム
- ③ ゴルフなど兵庫の強みを活かしたスポーツツーリズム

※「ひょうご新観光戦略」中間見直し案より抜粋

(2) 首都圏でのプロモーション（令和7年度9月補正予算で計上）

- 首都圏を対象とした誘客キャンペーンとして首都圏向けプロモーションを実施
- 現地レップ等を活用した首都圏メディアの取材促進やツアー商品特設サイトの整備を展開

(3) 今後のウェルネスツーリズムの取組

- 戦略に位置付けられたことで、来年度以降は観光部局が中心となり、具体かつ戦略的に事業を実施
- 既存の海・山のリトリートに加え、他のコンテンツも含めた全県的な展開を実施

今後のウェルネスツーリズムは観光部局が担い、全県を横断した取組を展開していく

【報告事項】大阪・関西万博までのプロジェクト

令和6年度第2回（R7.3.12）企画委員会資料

万博までのプロジェクト実施 <～2025年> (基本方針に基づくプロジェクト)

中長期的なプロジェクト検討 <～2030年> (2024年度に企画委員会で検討したプロジェクト)

神戸	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジーライオンアリーナ開業（2025年4月） ・ 神戸須磨シーワールド（水族館・ホテル）の開業（2024年6月） 	<p>施設整備完了見込。 周辺活性化に向けて 事業者と継続協議。</p>
阪神	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新西宮YHへのスーパーヨット誘致PR動画（R5制作）を活用した海外向け情報発信 ・ 万博に向けたひょうご楽市・楽座開催調整（イベント企画、インフラ整備） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 瀬戸内連携の強化（海外PRや勉強会） ・ 万博を契機とした交流人口の拡大（県内各地プレイヤーの参画）
淡路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域デザイン専門職大学院等食と観光の専門人材育成施設の整備 ・ 船舶の受入環境向上に向けた淡路交流の翼港の浮棧橋改良工事 	<p>万博効果を見据えた 施策実施、施設整備 （島博、花みどりフェア、 AWAJI EARTH MUSEUM等）</p>
その他 （全域 テーマ）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 万博、瀬戸芸を見据えた航路就航支援（旅行商品造成・実証/補助事業） ・ 空飛ぶクルマ万博期間中のデモフライト実施に向けた調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旅行会社と船会社のマッチングや補助事業により航路実現 ・ 機運醸成イベント企画、デモフライトも考慮した補助体制整備

マリンビレッジ(阪神-神戸)

阪神間ブランドを生かした
マリンレジャーを核とする上質な親水空間の形成
(海遊/回遊エリア)

- ・ マリンスポーツ関連イベント、活動拠点のPRを通じた認知向上
- ・ 海洋体育館、新西宮YH等既存施設を活用した賑わい創出
- ・ 次世代産業立地など港湾周辺の活性化
- ・ 環境の保護、活用(ブルーカーボン等)

ウェルネスツーリズム

国生み神話、御食国等ルーツオブジャパンの
自然・食を軸とした世界へと躍進する
ウェルビーイングなエリアの形成

- ・ 有馬温泉・六甲山との連携による相互誘客(山のリトリート)
- ・ 淡路島へのアクセス性強化と首都圏、海外からの認知向上(海のリトリート)
- ・ ラグジュアリーホテル誘致
- ・ 富裕層インバウンド受入に向けた魅力向上、ガイドライン整備

・ プロジェクトへの参画を促すPRプラットフォーム立上げによる認知向上の基盤整備

・ 地域住民や関係者を巻き込み、賑わいづくりの検討加速

・ 港湾周辺の活性化に向けた市との連携強化

1. ひょうご楽市楽座の結果

万博期間中に設置された「**尼崎万博 P & R 駐車場**」の隣接地で
兵庫五国の魅力発信と交流人口の拡大を図る**ナイトマーケット**を開催

- **期 間** 2025年4月13日(日)～ 10月12日(日) の土日 (計53日)
- **時 間** 午後4時～午後9時
- **場 所** 尼崎フェニックス事業用地
(尼崎万博 P & R 駐車場 隣接地)
- **実施目標** 来場者数 3,000人/日



会場の賑わい



【開催概要】

○県内各地で活躍するプレイヤー（地域アドバイザー）がイベント内容を企画

○地域ごとの魅力ある出店（約20ブース/日）とステージイベントを開催

<イベント事例>

- ・播州織などの特産品販売・ワークショップ
- ・地元で活躍するキッズダンスグループ、音楽バンドの出演
- ・空飛ぶクルマデモフライトイベント(R7.8.2～3)
- ・ブルーインパルス展示飛行の観覧 (R7.7.12～13)
- ・「EXPO Thanks花火大会」の観覧 (随時)



など

地場産品を
使用した飲食



キッズダンス

<出店地域一覧>

開催日	4月	5月		6月			7月		8月			9月		10月	
	13,19 20,26 27	3. 4 10.11 17.18	24,25 31	1 7,8	14,15 21,22	28,29	5, 6 12,13	19,20 26,27	2, 3 9,10	16,17 23,24	30,31	6,7	13,14 20,21 27,28	4,5	11,12
地域	阪神南		阪神北		東播磨	淡路	北播磨	但馬	中播磨	西播磨	神戸		丹波	神戸	淡路

結果概要

- 目標に対し、**実績は2,100人/日**
(総来場者102,600人、開催日数49日)
 - 楽市楽座の認知度向上や開催内容への評価が高まるにつれ、**来場者は後半にかけて増加**
(9月：平均3,000人、10月：平均4,000人)
- ⇒**成果と課題については「大阪・関西万博」ひょうご活性化推進協議会 企画委員会の中で検証作業を実施していく（令和8年2月公表予定）**

2. 空飛ぶクルマデモフライトの結果

空飛ぶクルマデモフライトイベント

関西・瀬戸内地域で空飛ぶクルマのビジネス化を目指す(一社)MASCと連携し、ひょうご楽市楽座会場においてデモフライトを実施するとともに、コックピットの試乗体験会やVRでの操縦体験等、空飛ぶクルマを身近に体験できるイベントを開催

開催日 R7.8.2～8.3(2日間)

参加者数 計5,000名



デモフライト



VR操縦体験



コックピット試乗会

- ・ 8/2 - 3 空飛ぶクルマデモフライトイベントには、計5,000人が参加。県民をはじめとした多くの方々に空飛ぶクルマについて、身近に感じていただき、**空飛ぶクルマの認知度向上に寄与**
- ・ 社会実装に向けて引き続き、**空飛ぶクルマへの理解促進（社会受容性向上）のため継続した取組が必要**

3. 海上交通（万博航路）の結果

大阪関西万博期間中、兵庫県内の港と万博会場を結ぶ**定期航路1隻**、**不定期航路4隻**の運航が実現した。

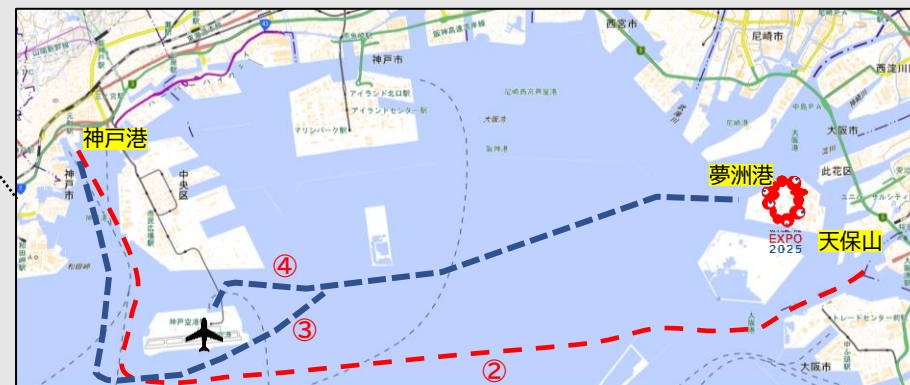
定期航路

パソナグループ



NATUREVERSE
awalineきらら

航路①
万博期間中毎日運航
欠航率は10%
主に淡路島や四国
在住者に利用された



不定期航路

神戸クルーザー



ルミナス神戸2

航路②
万博ツアーや一般団体
によるチャーターなど
計58本運航

早駒運輸



BohBohKobe

航路③
「神戸市内子ども招待
及び夢洲体験クルーズ」
にて計3本運航、
企業による貸切チャーター
で計3本運航

神戸ベイクルーズ



御座船安宅丸

航路③
「神戸市内子ども招待
及び夢洲体験クルーズ」
にて計3本運航

こうべ未来都市機構



ベイシャトル
「かぜ」

航路④
「神戸市内子ども招待
及び夢洲体験クルーズ」
にて計7本運航、
神戸空港就航先都市等
の商工会議所による
チャーターで計3本運航

- ・ 万博航路における需要を検証し、2027年の**神戸港**SUPER YACHT BASE KOBE**開業**や2030年の**大阪IR開業**を見据え、海上交通を活用した新たな県内への誘客促進策やベイエリアの活性化を模索する。

4. 基本方針に基づくプロジェクト（今年度で完了するプロジェクト）

11

※No...基本方針に記載の番号

エリア	No	プロジェクト	担当	万博までの進捗
神戸	1	新たなアリーナの活用	神戸市	R7.4月に「GLION ARENA KOBE」を開業。
	3	須磨再開発を通じた賑わい創出	神戸市	R6.6月に開業した「神戸須磨シーワールド」の累計入館者数が200万人を突破。
	4	海上交通の活性化	神戸市	須磨と淡路を結ぶ海上交通実証実験を実施（R4～R6）。 R7.7月下旬～8月下旬の間、企業から寄付いただいた万博チケットを活用し、市内在住の親子を対象に、神戸～夢洲間のクルーズ体験（計13回）を実施。
	5	神戸大阪新規航路の就航	SDGs推進課	万博開催期間中は、民間主導により神戸港・神戸空港～夢洲港、神戸港～天保山の不定期航路が実現。（計4社）
阪神	9	工場地帯の特徴を活かしたイベント実施	SDGs推進課	「ひょうご楽市楽座」のステージイベントとして実施。
	11	万博を契機とした兵庫の魅力発信	SDGs推進課	尼崎フェニックス事業用地にて、万博期間中の土日限定ナイトマーケット「ひょうご楽市楽座」を実施。 総来場者数は102,600人、平均来場者数は2,100人/日を計上。
淡路	18	夢舞台温室（あわじグリーン館）の展開	公園緑地課	環境教育プログラム及び体験型イベントの強化によりSDGsへの理解を促進。（32回開催）
	24	淡路交流の翼港の活用	港湾課	浮棧橋の改良により万博会場への直行便の発着地として活用。
	25	次世代モビリティの実証実験 （自動運転＜二次交通＞）	地域整備 振興課	R7.5.15～5.26に自動運転乗車体験を夢舞台地区にて実施。
全域	27	クルージングMICE	SDGs推進課	クルージングMICE補助金事業を実施し、R7年度は6件（見込）の申請を受領。 神戸-大阪間に加え、瀬戸内エリア側（姫路-家島）の展開も支援。

4. 基本方針に基づくプロジェクト（神戸・阪神エリア）

※No...基本方針に記載の番号

エリア	No	プロジェクト	担当	万博までの進捗
神戸	2	都心に近接した水域の活用	神戸市	優先交渉権者（株式会社ジーライオンほか）との事務的な調整を実施。
阪神	6	マリンスポーツの認知度向上及び賑わいづくり	阪神南県民センター	WEBサイトやリーフレットによる周知広報、マリンスポーツ体験会を実施。
	7	兵庫県発祥の美術「具体」の活用による地域ブランド力向上	阪神南県民センター	県内の「具体」展の情報や関連イベント、施設等を紹介する紙マップを作成し、関係美術館、楽市楽座会場等で配布。
	8	新西宮ヨットハーバーの活用	港湾課	せとうちDMOと共同で海外ヨットショーへのブース出展を実施。 (5月：豪州、9月モナコ)
	10	尼崎運河の魅力創出	阪神南県民センター	賑わい創出イベント「尼崎運河魅力アップ（クルーズ&ウォーク）」を開催。英語字幕付き動画による国内外への情報発信や、民間主導による大阪・関西万博FP「尼崎運河クルーズツアー」等を実施。
	12	武庫川下流部の干潟再生による生物多様性の向上	河川整備課	R7年2月に潮止矢板の設置を完了、同月に潮止堰を転倒したことで干潟の再生が進捗。 小学生を対象とした環境学習等を企画・実施。
	13	産業都市の特性を活かした取組 （臨海部での脱炭素の取組）	尼崎市	地域一体型オープンファクトリーの開催。
	14	次世代モビリティの実証実験 （自動運転トラック）	三井物産	首都圏と京阪神を結ぶ高速道路上での実証実験等を実施。商用運行も開始。

4. 基本方針に基づくプロジェクト（淡路エリア・全域）

※No...基本方針に記載の番号

エリア	No	プロジェクト	担当	万博までの進捗
淡路	15	ホテルと食の人材育成	パソナ 農援隊	「としまスコラ」内にて地方創生料理人を育成するプログラム「Awaji Chef's Scuola」を開始。
	16	ラグジュアリーホテルの誘致	SDGs推進課	事業者への働きかけを継続。 ※神戸空港国際化や六甲山再開発（サイレンスリゾート等）の動向を踏まえ実施
	17	個性的な宿泊施設の誘致	洲本市・ 南あわじ市	実施なし
	19	公共施設の活用	洲本市・ 南あわじ市	丸山地域における持続可能な賑わいの創出と経済的基盤の形成を目指し、丸山漁港施設を活用して「海業(うみぎょう)」を実施する民間事業者を選定。
	20	大型クルーズ船の誘致	洲本市	洲本港に寄港。寄港時には歓迎セレモニーを実施。
	21	大鳴門海峡周辺の賑わい創出	南あわじ市	大鳴門自転車道整備や道の駅の改修等により、サイクルツーリストや観光客の受入環境を強化。
	22	観光ガイドの養成	南あわじ市	南あわじ市認定観光ガイド第3期4名を認定。（計16名） 観光ガイドのロゴマークを作成。
	23	徳島空港アクセスバスの実証運航	南あわじ市	市独自の運行支援及びPRイベントを実施。（KITTE丸の内、福岡空港） JAL機内誌への掲載、関東圏鉄道広告を掲出。
全域	26	夢舞台サステナブルパークでのカーボンニュートラル	淡路市	国営明石海峡公園外4施設での再エネ設備の導入。 淡路市夏まつりで脱炭素をへの取り組みを紹介するPRブースを出展。
	28	次世代モビリティの実証実験（水素船）	SDGs推進課	実施なし

5. 基本方針に記載のないプロジェクト（完了したものを含む）

エリア	プロジェクト	担当	万博までの進捗
阪神	鳴尾浜臨海公園南地区の再整備	西宮市	Park-PFIによる公園再整備事業の募集要項・公募設置等指針を公表。
	尼崎フェニックス事業用地の活用	港湾課	港湾緑地（のびのび公園）の管理運営事業の優先交渉権者を選定。事業用地の各ブロックの分譲にかかる譲受人を募集・選定。
淡路	地域創生リーダーの育成	パソナグループ	R9.4月の開学に向け、R7.10月に文科省に申請を実施。
	AWAJI島博2025の開催 済	淡路島観光協会	令和7年3月20日～10月13日に開催。 首都圏観光客・インバウンドの誘客を増加するべく、淡路島ならではの体験型観光プログラムの開発・販売を促進。
	淡路花みどりフェア2025の開催 済	公園緑地課	令和7年3月20日～4月27日に開催。 「人と自然の持続的な共生のあり方」をレガシーとし、万博の機会を捉えて国内外に効果的に発信。
	津名港周辺の未利用地の再整備による地域活性化	淡路市	未利用地所有者である兵庫県の関係者とのミーティングを実施。
	淡路夢舞台の創造的再生	企業庁総務課 国際課 公園緑地課 港湾課	大阪湾ベイエリアの新たな展開を見据え、民間活力の導入により、地域の活性化を牽引する拠点として淡路夢舞台を創造的に再生。 令和7年9月に中間報告。年内に最終報告公表の見込み。
全域	「大阪湾MOBAリンク構想」の実現	水大気課	総会やセミナーの開催のほか、万博パビリオンに出演。 「ロゴ」や「大阪ブルーカーボン宣言」を決定。
	次世代モビリティの実証実験（空飛ぶクルマ）	新産業課	県内の行われた17件の実証・調査に対して補助を実施。
	ウェルネスツーリズムの取組	観光振興課	R6年度に「六甲有馬・淡路島WellnessDestination」検討ワーキングを設置。 「ひょうご新観光戦略」中間見直しにて、ウェルネスツーリズムを今後の全県方針に位置付け。
	海上交通瀬戸内連携プロジェクト	SDGs推進課	県内各地の港湾に関する需要動向を調査し、県内外との広域連携を推進。

5. 基本方針に記載のないプロジェクト（大型公共事業）

エリア	プロジェクト	担当	万博までの進捗
全域	神戸空港国際化	神戸市	※詳細は神戸市、関西エアポートにヒアリングを予定 ・令和7年4月18日からソウル、台北、上海など国際チャーター便の運航を開始 ・令和12年（2030年）頃に国際定期便の就航予定
	大阪湾岸道路西伸部 （六甲アイランド北～駒栄）	情報提供は 兵庫県	・平成28年4月 事業着手(国・直轄道路事業) 平成29年4月 有料道路事業導入（阪神高速道路(株)が事業者として参画） 平成30年7月 国・直轄港湾事業参画 ・令和7年度現在、 六甲アイランド内は、下部工工事に加え、一部、上部工架設工事に着手。 六甲アイランド～ポートアイランド～和田岬～駒栄地区は、設計中 駒栄地区は、開削トンネル工事等を実施中
	名神湾岸連絡線	情報提供は 兵庫県	・令和3年4月 事業着手（国・直轄道路事業） ・令和6年4月 有料道路事業導入（阪神高速道路(株)、西日本高速道路(株)が事業者として参画） ・令和7年度現在、全線で設計中
参考	統合型リゾート大阪IRの開業	-	・大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画の認定申請を 令和5年4月14日に認定済み ・現状、実施協定の締結・認可まで終了（令和5年9月22日認可、9月28日締結） ・令和12年（2030年）秋ごろ開業予定
	リニア中央新幹線の開業	-	・令和9年（2027年）以降、品川-名古屋間の開業予定 ・令和19年（2037年）～令和27年（2045年）の間に名古屋-大阪間の開業予定

【協議事項】 今後のプロジェクトの方向性

令和6年度第2回（R7.3.12）企画委員会資料

万博までのプロジェクト実施 <～2025年>
(基本方針に基づくプロジェクト)

神戸	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジーライオンアリーナ開業（2025年4月） ・ 神戸須磨シーワールド（水族館・ホテル）の開業（2024年6月） 	施設整備完了見込。 周辺活性化に向けて 事業者と継続協議。
阪神	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新西宮YHへのスーパーヨット誘致PR動画（R5制作）を活用した海外向け情報発信 ・ 万博に向けたひょうご楽市・楽座開催調整（イベント企画、インフラ整備） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 瀬戸内連携の強化（海外PRや勉強会） ・ 万博を契機とした交流人口の拡大（県内各地プレイヤーの参画）
淡路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域デザイン専門職大学院等食と観光の専門人材育成施設の整備 ・ 船舶の受入環境向上に向けた淡路交流の翼港の浮桟橋改良工事 	万博効果を見据えた 施策実施、施設整備 (島博、花みどりフェア、 AWAJI EARTH MUSEUM等)
その他 (全域 テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 万博、瀬戸芸を見据えた航路就航支援（旅行商品造成・実証/補助事業） ・ 空飛ぶクルマ万博期間中のデモフライト実施に向けた調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旅行会社と船会社のマッチングや補助事業により航路実現 ・ 機運醸成イベント企画、デモフライトも考慮した補助体制整備

万博までの実績・成果

- ・ ひょうご楽市楽座の開催や空飛ぶクルマデモフライトの実施
 - ・ クルージングMICE補助制度による航路就航支援 等
- ⇒ **R8年度に向けて各プロジェクトの成果や課題等を整理**

中長期的なプロジェクト検討 <～2030年>
(2024年度に企画委員会で検討したプロジェクト)

マリンビレッジ(阪神・神戸)

阪神間ブランドを生かした
マリンレジャーを核とする上質な親水空間の形成
(海遊/回遊エリア)

- ・ マリンスポーツ関連イベント、活動拠点のPRを通じた認知向上
- ・ 海洋体育館、新西宮YH等既存施設を活用した賑わい創出
- ・ 次世代産業立地など港湾周辺の活性化
- ・ 環境の保護、活用(ブルーカーボン等)

ウェルネスツーリズム

国生み神話、御食国等ルーツオブジャパンの
自然・食を軸とした世界へと躍進する
ウェルビーイングなエリアの形成

- ・ 有馬温泉・六甲山との連携による相互誘客(山のリトリート)
- ・ 淡路島へのアクセス性強化と首都圏、海外からの認知向上(海のリトリート)
- ・ ラグジュアリーホテル誘致
- ・ 富裕層インバウンド受入に向けた魅力向上、ガイドライン整備

- ・ プロジェクトへの参画を促すPRプラットフォーム立上げによる認知向上の基盤整備

- ・ 地域住民や関係者を巻き込み、賑わいづくりの検討加速

- ・ 港湾周辺の活性化に向けた市との連携強化

中長期における検討課題（継続課題）

○マリンビレッジ

新西宮YH等の既存施設を活用した賑わい創出 等

1. 中長期的なプロジェクトの検討

兵庫県域の大阪湾バイエリア活性化基本方針P.10

時間軸を意識

- 万博開催(令和7(2025)年)までは、即効性がある人呼び込むプロジェクトを先行して実施する。
- 並行して、万博以降を見据えて実施までに協議調整など、期間を要するモノと投資を呼び込むプロジェクトを検討する。

令和5(2023)年

【2023年～2025年 大阪・関西万博開催まで】
万博を好機にバイエリアの魅力を世界にアピール

兵庫県域の大阪湾バイエリア活性化基本方針策定

- 短期的には、誘客・交流の活性化を軸に、万博会場と県内各地を結ぶ海上交通の充実や、地域間を両通する観光コンテンツの造成、運河や臨海部を活用したイベントコンテンツの展開等のプロジェクトを展開します。
- 並行して、中長期的に実施する、モノや投資を呼び込むプロジェクトに着手します。

令和7(2025)年

大阪・関西万博開催

- 「People's Living Lab 未来の実験場」をコンセプトとした博覧会
- 国内外から2,820万人もの来場者が見込まれ、世界がこのバイエリアに注目

令和8(2026)年

【2026年以降～ 大阪・関西万博以降】
東西日本を結ぶ大交流圏の中心結節点としてグローバルに躍動

- 中長期的なプロジェクトを実施し、エリア全体の訴求力を高め、人・モノ・投資を持続的に呼び込みます。
- そのために、神戸空港の国際化、道路や港湾インフラの整備など、社会情勢に応じた土地利用計画や規制の見直しを実施し、民間のチャレンジ意欲を引き出します。
- 大阪湾のみならず、瀬戸内からも人・モノ・投資を呼び込みます。
- 将来的には、瀬戸内の東の玄関口として、リニア開通で形成されるスーパーメガリージョンの西の玄関口として、そして日本の東西を結ぶ結節点として、国内の求心性はもとより、グローバルに躍動します。

【目標年次：2040年頃】

阪神・淡路バイエリアの持続的な賑わい、活性化を実現

万博までの実績・成果

○各プロジェクト

企画委員会にて実績・成果、課題を整理



中長期における検討課題（継続課題）

○マリンビレッジ

新西宮YH等の既存施設を活用した賑わい創出 等

大阪・関西万博以降

これまでの取組や継続課題を踏まえた中長期プロジェクト等により、エリア全体の訴求力を高め、人・モノ・投資を持続的に呼び込む体制を作り上げる必要がある

【2030年前後のキーワード例】

神戸空港
国際化

大阪IR
開業

神戸港
マリーナ整備

WMG2027
関西

次世代
モビリティ

海上交通